

2020 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	田中 満由美	職名	教授	学位	修士(経済学)(山口大学 1999年)
----	--------	----	----	----	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
助産学	就労女性の仕事と子育ての両立、ペリネイタル・ロス、不妊症患者に関する看護、父性の研究、女性の尿失禁、性教育

研究課題
<p>「就労女性の仕事と子育ての両立」を主軸に、「不妊症患者に関する看護」「ペリネイタル・ロスを経験した母親や父親についての援助方法」「妊娠・分娩・子育て期の看護」「性教育」「父性の研究」「女性の尿失禁」をテーマに研究をしている。学会発表においては、第41回日本母性衛生学会会長賞を受賞し、山口県母性衛生学会奨励賞は5回受賞している。特に助産学の研究に力を入れ、助産学の質向上に努めている。「就労女性の仕事と子育ての両立」については、就労女性の疲労度を軽減するにはどのような援助が必要かを明らかにし援助方法を提示している。「仕事と不妊治療の両立に必要な援助方法に関する研究」では就労女性の不妊治療における困難やストレスの内容、就労と治療の調整を困難にしている要因を明らかにし、看護援助や治療環境のあり方を提示している。「助産師がペリネイタル・ロスのケア体験に適応していくプロセス」の研究では助産師がペリネイタル・ロスのケア体験に適応していくプロセスを明らかにし、ペリネイタル・ロスのケアに対する助産師教育の方向性を提示している。</p>

担当授業科目	
基礎助産学Ⅰ(前期)(助産別科) 助産学基礎実習(前期)(助産別科) 助産管理学(前期・後期)(助産別科) 助産学実習Ⅰ(正常)(前期)(助産別科) 助産診断・ケア学Ⅶ(前期・後期)(助産別科) 助産管理実習(後期)(助産別科) 助産学研究演習(前期・後期)(助産別科) 母性看護学概論(前期)(看護学科) キリスト教と生命倫理(後期)(助産別科) ウィメンズヘルス看護論(前期)(看護学科) 子育て支援論(前期)(助産別科) キャリア開発(後期)(看護学科・人文学部・福祉学科・栄養学科) 総合看護学(前期)(助産別科)	助産学基礎実習(前期)(助産別科) 助産管理実習(後期)(助産別科) ウィメンズヘルス看護論(前期)(看護学科) キャリア開発(後期)(看護学科・人文学部・福祉学科・栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【基礎助産学Ⅰ】 範囲が広いので、授業にはパワーポイントで展開し、国家試験出題基準も意識し、資料はカラーの使用で覚えるところの強調等をして作成した。限られた時間ではあるが、学生に討議するなどの時間もつくれた。

<p><b>授業科目名【助産管理学】</b></p> <p>病院・助産所における助産管理に必要な基本的知識を身に着けるため、助産管理の基本的概念と管理のプロセス、業務管理、助産業務に関連する概念や関連法規、周産期管理システム、周産期におけるリスクマネジメント、災害時の看護ケアなどについて臨床経験を活かし、事例を示しながら、国家試験も念頭に授業を展開した。資料は特に覚えなければならないことはカラーを使用するなどの工夫をして作成した。</p>
<p><b>授業科目名【助産診断・ケア学Ⅶ】</b></p> <p>助産診断過程についての講義は田中が担当し、事例を通して各期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)は学生各人に対して教員の担当を決め、マンツーマンで助産過程の指導を実施し、各期毎に学生の代表者に発表させ、共通認識しながら演習を進めて行った。学生はマンツーマンの指導や他人の発表を聞くことで助産過程をより理解することができた。</p> <p>実習で助産過程を展開する際、この科目での習得した技術により、助産診断・助産過程が全員出来ていた。効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。</p>
<p><b>授業科目名【助産学研究演習】</b></p> <p>前半は研究の講義を実施し、後半はグループ担当教員を決め、担当教員の元、グループでテーマを決めて研究計画書の作成を行い、構想発表会を実施した。</p> <p>構想発表会では学生は自分たちで研究計画書作成のプロセスでの教員とのやり取りの中での学びをもとに活発な質疑応答を実施することができた。</p> <p>効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。</p>
<p><b>授業科目名【キリスト教と生命倫理】</b></p> <p>7コマ中、4コマ担当している。担当部分に関しては、倫理と助産業務、生命倫理(生殖補助医療、代理出産、人工妊娠中絶、出生診断などについて講義をするとともに討論した。本科目のコマは受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、そのことを念頭に入れて申請書に沿った授業を展開した。</p> <p>次年度も受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、この形式で実施する予定である。</p>
<p><b>授業科目名【子育て支援論】</b></p> <p>担当分については講義は子育て支援全般(子育て支援とは・目的・支援施策の歴史・諸問題と理論・現状・関連3法その他の法律)について概説した。一方的に講義するのではなく、積極的に学習できるように母子保健施策として実施されている様々な子育て支援を日本を数ブロックに分け、担当ブロックを調査し、担当ブロックについて発表しデータを共有するとともにそれぞれの自治体の背景にあった子育て支援がなされている特徴を学生が、発見することができた。自分たちの担当県との違いなどについて討論することができた。</p> <p>効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。</p>
<p><b>授業科目名【総合看護学】</b></p> <p>担当部分は看護理論であるが、助産別科学生は大学卒、看護学校卒、専攻科卒、5年一貫卒と基礎教育がばらばらであり、それぞれの学校で看護過程を展開する基盤となる主に使用する理論も違っているため、そこを意識し、主たる看護理論を概説した。</p>
<p><b>授業科目名【助産学基礎実習】</b></p> <p>本学も実習施設もコロナ禍の緊急事態宣言により、実習に大きく影響し、助産別科教員一丸となって、コロナ対応、調整、学内実習を実施し、例年と比べ、実習目標が低下しないための努力をした。</p>
<p><b>授業科目名【助産学実習Ⅰ(正常)】</b></p> <p>本学も実習施設もコロナ禍の緊急事態宣言により、実習に大きく影響し、助産別科教員一丸となって、コロナ対応、調整、学内実習を実施し、例年と実習目標が低下しないための努力をした。</p> <p>学内実習を実施するにあたり、教員一同会議を重ねて事例の検討や学習効果の向上、質担保に努めた。</p>

<p>授業科目名【助産管理実習】</p> <p>一施設はコロナにより、実習中止となった。コロナ禍において実習日程の変更、条件など調整に努め、例年と同様の質担保に努めた。</p>
<p>授業科目名【母性看護学概論】</p> <p>遠隔授業で7コマで教科書1冊を教授するという制約の中で、国家試験の意識しながら、ギュウギュウに内容を詰め込んでいるが、学習の理解を助けるため、授業初めに前回のポイントを5分程度使用して復習している。時間内に質問は実施しているが、もっとゆっくり考える時間をとりたい。</p> <p>授業初めに前回のポイントを5分程度使用して復習については効果があるので、次年度も継続するが、優先度の低いところを削るという作業を少し実施し、時間的余裕をもって講義を展開したい。</p> <p>遠隔で、顔が見えないまま、パワーポイントを用いて講義を実施したが、質問は行ったが、対面に比べて反応がわかりづらい面があった。</p>
<p>授業科目名【ウィメンズヘルス看護論】</p> <p>学生の興味のあるテーマで助産別科担当教員が各人に対してマンツーマンで指導している。担当教員は時間内にすべて指導できるわけではないので、大変ではあるが、学生は指導の中で、研究の基礎となる「調べること」「書く」「まとめる」などの基礎をプロセスとして学習し、例年学生の満足度は高い。学生は自分の興味あることを積極的に図書館の利用、医中誌などの利用などを通して調べる、まとめることの面白さが分かるが、今年度は遠隔授業で学生は図書館が利用できず、満足に調べることができなかった。次年度は授業形態を変更する予定である。</p>
<p>授業科目名【キャリア開発】</p> <p>キャリアを考える場合、大学生活は性についてしっかり考えたうえで、行動することが大事であることから、1コマを担当させていただいている。次年度も基本的なことより丁寧に説明したい。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本母性衛生学会	2009.4～2016.3 評議員、論文査読委員	1974.4～現在に至る
日本看護学会		1975.6～現在に至る
日本助産学会	学術学会査読委員	1995.5～現在に至る
STTI	2012.7～2014.6 役員	2004.4 現在に至る
NHS		2002.9～現在に至る
山口医学	2003.4～評議員(現在に至る)(2003～2年幹事)	1999.4～現在に至る
山口県母性衛生学会	2003.7～2018.6 理事、2003.7～査読委員(現在に至る)	1984.7～現在に至る
日本母性看護学会	2019年3月～2019年4月学術学会査読委員	2015.10～現在に至る
日本看護診断学会		1995.4～2003.3
日本看護研究学会		1997.4～2003.3
日本解剖学会		1999.9～2018.3
日本神経科学学会		2000.5～2018.3
日本神経内分泌学会		2000.10～2018.3

2020年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学术论文) 1 産科における褥婦に対する退院指導の実態	共著	2021年3月	山口県母性衛生学会誌 Vol.37	<p>①産科を標榜する山口・福岡・広島3県の産科において褥婦に対する退院指導の実態を明らかにすることを目的に 206 施設を対象に調査した。その結果、退院指導の際、口頭で指導していない施設が4割あった。指導内容については乳児の事故・健康被害の予防に関するものは7割以下であった。小児の発達について指導している施設は7割であり、そのうちの約7割は「生後1か月まで」の指導であった。異常がなければ保健指導を受けることがないことを考慮すれば、保健センターや小児科医との連携が必要であることが示唆された。</p> <p>②共著者名 坪井陽子、田中満由美、吉川友沙、富永千晶、</p> <p>③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能</p>
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

助産別科長、入試委員会委員、学生支援委員会委員
-------------------------